

問題【国語】

問 下の文は「枕草子」の一部です。下線部をそれぞれ現代語訳しましょう。

秋は夕暮れ。夕日のさして、山の端いと近こうなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ二つなど、①飛び急ぐさへ、あはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、②いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず。

豆知識 雑学コラム

あぁ…「あはれなり」

今日は古文についてみていきましょう。古文を読んでいく上で、単語、文法が現代語と違う使われ方をすることが多く、それらを覚えることが古文の学習の基礎になります。

では、古文単語について掘り下げていきましょう。まず、全ての言葉が古文と現代語で違う意味で使うわけではありません。「走る」や「食べる」のような動作を表す言葉の多くは現代語と古語で同じ意味で使われます。一方、今回出てきた「あはれなり」や「をかし」のような感想を表す言葉は古語と違う意味になることも多いです。

そもそも、感想を表す言葉は、現代人の間でも少しずつ使い方に違いがあります。例えば、同じとても辛いカレーを食べたときに「おいしい」という人もいれば、そうでないという人もいます。前者にとっては「おいしい＝辛い」で、後者にとっては「おいしい≠辛い」となるのです。このように、感想を表す言葉は個人の感じ方によって使い方が変わります。一方で、「おいしい」は「自分の口に合っていた」や「好きな味がする」という場面で使うという共通した使い方の決まりがあります。



これは現代語と古文の間でも同じです。たとえば、「あはれなり」は思わず「あぁ」と言ってしまう場面に使います。現代では、かわいそうな物を見たときに「あぁ」と言ってしまう場面でのみ使いますが、古文では、素晴らしいものを見て「あぁ」と言ってしまうときにも使います。「枕草子」では、後者の意味で使っていて、「しみじみとして良い」と現代語訳します。同じ単語にはこういう場面で使うという共通したイメージがあるのでまず、それを覚えてから、細かな意味を覚えるようにしましょう。

【解答】

- いぬを寝るに三つ四つ二つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず。
- ② いと小さく見ゆるは、いとをかし。 ①